

Wilmina 会総会開催の報告(2012 年 7 月 14 日)

7 月 14 日(土)に、Wilmina 会(教育後援会)の総会が、大学・短期大学校舎 1 階のウヰルミナホールで行われました。総会の次第は次の通りです。

1. 会長の挨拶
2. 総会出席者の紹介と入会状況についての報告
3. 懇談(今後の運営方法について他)
4. 学生・生徒による発表
5. 閉会の挨拶
6. 記念撮影

1. 西村耕会長の挨拶(抜粋)

良い私学には次の三つの特徴があるといわれます。一つは高い志を持った創設者がいること、次に明確な教育理念があること、三つ目は関わる人たちによって支えられているということです。

大阪女学院の前身ウヰルミナ女学校の創設者である A.D.ヘールは、130 年前に米国カンバーランド長老教会の宣教師として来日し、日本人への伝道と教育にその生涯を捧げました。そのお墓は、婦人とともに大阪府豊中市にある服部霊園内の外国人墓地にあります。学院は創立以来、生徒・学生を神に生かされたかけがえのない人格と受け止め、社会のために働くことを喜びとする人間を育てることを教育の目標としてきました。

大阪女学院 128 年の歴史の中で、存亡の危機の一つが敗戦の年(1945 年)にありました。6 月の大阪大空襲で校舎のすべてを焼失しました。廃校も考えられましたが、9 月から新学期が始まりました。椅子も机もないので、焼け跡から煉瓦を拾ってきて青空の下で応急の机、椅子にしました。雨が降ったら休校、風が吹いても休校でした。風が吹くとあたりの焼け野原から灰が舞い上がって目を開けていられなかったからでした。

焼け残りの廃材や有志から譲られた木材で仮設校舎を作りました。教員職員も総出で作業をしました。窓ガラスがありませんので、生徒が家にあった額縁のガラスを持ち寄りました。大きさがまちまちの窓になりました。教材や教具を手に入れるためにバザーをしました。生徒たちは家庭から小麦粉や甘味料を少しずつ持ち寄って自分たちの手で食品を作りました。焼け跡には燃え残りの電線がたくさんありましたので、拾い集めてきて餅を焼く網を作りました。太い電線は外枠、細い電線を編み込んで立派な餅網が出来上がりました。材料は周囲にいくらかもありました。飛ぶように売れました。何かの引き出物にするとかで大量に買ってくれた人もいました。

バザーの収益で何を買おうかと生徒たちに聞くと、ピアノがほしいといいます。中古のピアノを買い求めて、唯一外郭だけが焼け残った鉄筋 4 階建ての建物の最上階に据えました。ガリ版で楽譜を手作りして、みんなでハレルヤコーラスを合唱しました。見渡す限りの焼け野原に、その歌声が響き渡りました。学校周辺の焼け残った建物の陰のそこここに、背に荷物を負ったままじっと音楽に聴き入る人々の姿がありました。敗戦で打ちひしがれた人々の心の奥深くに、ハレルヤコーラスがしみ入ったことでしょう。

新年度の生徒募集をどうしようかと考える時期になりました。学校のすぐ近くには焼けずすんだ公立の女学校や私立のミッション系の女学校もありました。やはり廃校にするしかないのかと思い悩んでいると、翌年になって校舎のない学校に入学を希望する保護者・生徒が次々に現れました。大阪女学院の教育を娘にもと願う卒業生たちが、「校舎のない学校」に大切な娘を送ってくれたのでした。その数は 80 名、それは、新一年生に想定していた人数にぴったりの数でした。この人たちがいる限り、大阪女学院の教育の灯を消してはならない。再建の火はもえあがりました。

学院は、まさに関わる人たちによって支えられ、勇気づけられて、危機を乗り越える力を与えられたのでした。その後も幾多の困難に遭遇しながらも、大阪女学院は復興を遂げ、今日に至ることが出来たのです…。

この Wilmina 会が、学院に関わる多くの人たちによって、学院を支える力として、また今を共に生きる者たちの豊かな集いとして大きく発展していくことを心から願っています。

2. 総会出席者の紹介と入会状況についての報告

総会出席者は38名でした。会の役員の皆さんの他にも、敗戦直後の「焼け跡からの学校生活」を実際に過ごされた方々が出席されていました。校舎が焼失したその年からバザーをしました、と懐かしげに語るお姿にも、大阪女学院が強く感じられました。

5月20日に受付を開始して、この総会前日までで法人・個人あわせて計515件の申し込みがありました。

3. 懇談(今後の運営方法について他)

懇談会では活発な意見が飛び交いました。

「募金の使途について」「会員拡大の手立てについて」「ボランティア募集」など今後のWilmina会の運営について話し合われました。参加者からは積極的な意見が多数出て活発な意見交換となりました。主なご意見は次の通りです。

- ・入会者のお連れ合いも含めて二人分をお願いしてはどうか。
- ・1口5,000円にして2口以上をお願いしてはどうか。
- ・私の教会では昼食一緒に食べる時、実費+100円を集めている。学校でも食堂に献金箱を置いて協力を求めているどうか。
- ・なぜ会費が一人5,000円と決められているのか。(余裕のある人にはもっとお願いできるのではないか。)
- ・使途をあらかじめ示して募金してはどうか。
- ・私の所属していたクラブでは毎年1回300名ほど集まっている。OG会として寄附に参加したい。他のクラブにも呼びかけたい。
- ・同窓会では、年間維持会費として1,000円納めて頂いている。その実績から考えても5,000円というのは適当な額である。
- ・年会費は年会費として、それ以外に基金としてそれぞれの方々の自由意志で、事情に応じた寄附をお願いしてはどうか。

4. 学生・生徒による発表

大学3年生の和田まりやさんは、大阪女学院中学・高校から大学に入学しましたが、セメスタ一留学の経験を含めて、自分の大学生活を語ってくれました。

高校バイブルクラブの高校3年生7名は、東日本大震災を巡る多くの人々の悲しみや励ましの声や映像を紹介し、自分たちの思いや祈りを証として発表してくれました。

参加者は皆、心静かに耳を傾け、生徒たちと思いと心をついにしました。

5. W.M.エルダー副会長の閉会挨拶(抜粋)

私が現役時代に、短期大学の学生募集のために四国の高校を訪れた時のことです。大阪女学院短期大学から来ましたといっても、対応してくれた進路担当者はすぐには分かりませんでした。手元にある短期大学の一覧表を見て確認しました。それは偏差値順に学校を並べた何枚かの資料でした。名も無い学校だろうと最後のページから順に見てくれました。ありません。前のページにもありません。次々にページをめくってついに最後のページになりました。ありました！全国で上から3番目にあったのです。

知名度はなくても高い評価がありました。短期大学の高い教育の伝統を受け継いだ大阪女学院大学が、正当に評価されて多くの学生を受け入れられるように願っています。また、この会が益々発展して学院の素晴らしい教育を支えていくことが出来ればと願っています。

約1時間半に亘る総会は、和やかに幕を閉じました。一同会場外の芝生で記念撮影の後、散会しました。

8月10日現在、Wilmina 会の入会員数は550名を突破しました。会を代表して西村会長がお一人お一人にサインをしてお礼状をお送りしています。

引き続いて会員募集活動が続いています。学院に関わる多くの皆様が、Wilmina 会入会という形で学院の生徒・学生をご支援下さいますよう改めてお願い申し上げます。

後ほど回収されたアンケートの項目と主なご意見は次の通りです。

◎ Wilmina 会の運営についてご意見をご自由にお書きください。

- ・中高生の活動報告を聞いて、このような活動をしている彼女達を支えてあげるのが私たちの務めかと思いました。
- ・使途については、そのひとつとして学院全体で一番大切な建物（在校生・卒業生皆さんの集う場）でもあるチャペルの費用にあててほしいです。オルガン、空調いずれも老朽化しています。
- ・大勢のメンバーが加えられる事を願う。ますます愛校心を持てる学校に成長して行く希望を託す。その為の多くの人々や集まりから良い意見を聞き、良く研究して下さい。出席できて幸いであった。クラス会にも呼びかけたい。まだまだ可能性あり。
- ・学生・生徒さんのためにお使いいただけましたらと思います。
- ・会員の集まる場で運営に関する積極的な意見交換ができるすばらしい会だと感じます。
- ・学校現場で今、何が必要なのかを知り、タイムリーにサポートできる態勢をとれるような会としたい。

◎ 本日の総会はいかがでしたか、ご感想などご自由にお書きください。

- ・「迷ったらマーケットに聞け」何でもこれがビジネスの基本であると思います。学校にとっては、マーケットとはやはり学生であると考えます。資金の使い道は学生に聞いてあげるべきです。というのは、自分の学生時代にそんな問いを受けたことはなかったからです。何にどれくらいの資金を使うかを学生本人に考えさせてそれを活用させることは彼らにとっても初めての良い経験となるでしょう。奨学金の無償提供には反対です。金額も小さいです。一部の学生でなく、学生全体で考える企画、皆の総意の下での使い道にすべきです。学生の発表には非常に感動しました。皆さん、しっかりしていच्छる。これは、学校関係者の皆様の教育・指導の賜物でしょう。
- ・参加者の人生を語る会にした方が有意義だ。支える人を主人公にした方がよい。ボランティアとして学内の草抜きなどもいいのでは。
- ・学生・生徒による発表に感銘を受けました。「教育後援会」の為に死にもの狂いで協力したいと思いました。
- ・大阪女学院への熱い思いを持った方々と一緒に過ごすときを与えられましたことに感謝します。
- ・出席者の意見を聞いて頂き良かったと思う。確かに小さなボランティアも素晴らしい事であるので、参加を希望する。お役に立ちたい。会費だけでなく基金という意見もあったが、生涯会費を！また出来る時に基金をと考える。
- ・活発な意見が出て感心しました。雰囲気も良かったと思います。
- ・懇談会形式で進められたのは良かったと思いますので、次回以降も堅苦しくない議事進行をお願いします。
- ・とても有意義な会でした。来年孫が中学受験を希望していますので、是非入学が許されることを願っています。
- ・学生・生徒の活動を共有させて頂き、素晴らしい学校に関われていることを実感しました。
- ・ボランティアでお手伝いさせて頂きます。
- ・大学の学生・高校生たちの発表をもっと多くの会員に聞かせてあげたいと思いました。参加者は少数でしたが、良い会でした。